

# 農園便り 3 月 (85号)

文責 筒口典康

今年の練馬区の農園は、関町南三丁目区民農園58区になりました。



昨年使われていた方が、中々上手に栽培なさっていたようです。58区全体を3分割。日当たりが良い、水の便の良く、おおいに楽しまれた(?)  
地面が低めなので、堆肥+化成、慣行農法であったと推察します。NHK 藤田先生の耕作の仕方(?)  
三角畝で地を均すことから始まります。地表を浅くかきまわす。

3月1日、耕作開始。農協で「醗酵牛糞」「醗酵鶏糞」「みのり堆肥」「カニ殻」「有機石灰」。タキイ種苗の「ダルマ堆肥」。小庭で作った「草木灰」、成蹊大学でいただく「醗酵馬糞」を区画内に撒きます=置きます。「納豆菌」「麹菌」「乳酸菌」「酵母菌」で作る自作「有機肥料を」カカ・マカ。

「菌」を植える。「有効菌」を育てるということ。即ち、土を作る=「育土する」と言う分けです。「土」が出来れば、光・空気・温度……で、作物が良く育つ。

区画の中の畝の作り方は、1月号3ページ示したように作ります。

菜園が、自宅からかなり離れていますので、作業の小エネを図らないと続けられないと思います。この当たりが今年のテーマになりそうです。

いかにカカ・マカで作付畝を作るかを、考える必要が出てまいりました。

楽しみは、「関町南3丁目区民農園」に行くには、花屋さんの「芝勝」の前を通過しますのでなんだか嬉しい。春に植える苗の入荷次第、少量買いまして植え付けるつもりです。

「芝勝さん」のお店を飾る花々がとてもキレイ! さすが美大でのお嬢さんの色使い。素晴らしい!。ご本人は、「卸で売られている物をそれとなく飾っているだけヨ!」とおっしゃる。水遣り、花がら摘み、などの手入れが良い。お花大好き、売っているだけでないお店なのであります。

フランス・パスツール研究所の土壤改良剤バイオポスト(バラリス商会 tell 03-34789-6139)、グアノ(鳥・蝙蝠の糞)、カニ殻、万田酵素…などの珍しい有効な有機肥料なども置いてあるので、頼もしい。青梅街道水道端バス停前にあります。

お父様が植木の会社の経営をなされているので、珍しい石や灯籠もあります。掘り出し物もありますヨ。一茎二花の貴重な春蘭も、この店で発見しました。

昭和から平成にかけての春蘭の流行時であったら、〇〇万の代物でしょう…。

東洋ラン・春蘭で、全盛を極めた黒崎陽人先生も数年前パリで、亡くなってしまわれた。一茎二花の春蘭について、先生にお聞きできないのが残念であります。

「芝勝」のお店の状況



三寒四温の季節になりまして、暖かい日には、ガマカエル達が大騒ぎ。寒い日には玄関テラスのクンシラン(ヒガンバナ科)を取り込みます。霜に当ててしまったら葉が凍ってしまい溶けてしまいますから、大変。回復するには2~3年かかります。そのまま腐りこんでしまうこともあります。

中国の国家会議である「全人代」の会場を飾る鉢の花です。かなりの大鉢が並びます。



君子蘭咲く 2月



オカワカメの越冬

それにしても、コロナウィールスの問題は恐ろしい。高齢者にとっては致命的な病気なので、心配です。マスクの着用、手洗い、顔を触らない、何かにつけて煮沸・煮沸！！。きゃつら、ウィールスは、高温に強いともいわれていますので手に負えない代物だ。外出はできるだけ避けないとなりません。

地球の生命の歴史から見れば、人類の繁栄は短い。かの恐竜は1億数千万年も生きたというのではないか！。人類は50万年、ホモサピエンスは10万年。急激な人の増殖そのものが地球の攪乱。ウィールスで滅ぶも有りか???

畑の周辺には、宿根野菜。日本古来からの野菜を植える。

南の東西に鉢の栓をはめて、クワイ、姫蓮根、セリ…。メダカを放つ。近くにツルナ、ニラ、ラッキョウ、ミツバ…。

北側の東西にアシタバ、その前(南)にサトウキビとレモングラス。肥沃畝には、ナスを。ナスの後ろはU字支柱を立てて、蔓物野菜。畑全体の中央に作業路を作る。畑の東西の隣接地には食用菊を植えましょう。季節の定番の夏野菜・秋冬野菜は、勿論作ります。

今年は「堆肥の力」で作る。農具の置き場所に積んである手持ちの有機肥料を使い切ることにします。高齢者の終活と位置付けます。余計なものは片付ける。現代農業(月刊誌)でも取り上げている堆肥農業と言う分けです。順次、ラクラクを報告させていただきます。畝を深く耕さない。半不耕起。不耕起栽培で参ります。

車を止めて、ガレージには、釜戸を2台置いてあります。クサヤを焼いたり、ホッケ、秋刀魚、サバ、イカ焼き、などで遊べる。カツオを1本丸焼きにするかと想像しています。

ステンレスの煙突を切断して、ロケットストーブを作ろうとしています。鉢カバー用のステン丸筒を@4~5000で買う。赤玉土の大粒で隙間を埋めれば簡単にできそうなのでやってみます。この簡易ストーブは、災害時の備えです。と、言う分けで、遊んでおります。釜戸に「灰」が出来る。

灰(カリウム=K肥)は、糖や澱粉、タンパク質を作ったり、それらを移動蓄積したり、生育作用を調節する働きをする。と、あります。生育の初期に特に必要。また、生育の末期にも増産を補う。土壌中の移動性は窒素よりやや弱いので、元肥及び追肥として施す。(園芸家のための花作りの科学 誠文堂新光社)。日本昔話の「花咲じい」のお話が納得できる。活力を失った樹木(桜)に釜戸にできた「灰」を撒いて、見事に咲かせた話。カリウムの効用を伝えたのもであります。



カマドンで「灰」を作る



熾火用の釜戸

カマドンで湯を沸かす

カメラを持って近所に出かける。遠く西山邸の屋敷林。お隣りの榎本さんも引っ越されて、今は武蔵小杉とか。孟宗竹、杉、椎、それと大きな大きな黒松、ツワブキにフキ、コケを趣味で作られていて、中々の趣味の庭でした。土地には、新築のお家が建つ。

近頃は庭のある家もなくなってしまいました。散歩のコースを変えないと、春を見つけるのが難しくなっていました。同級生の野田君の家前通りまでいかないとなりません。

そうそう、野田氏には昨年すっかりお世話になりました。お隣りに垂れかかったヤマモモの枝の始末、身軽にさせていただきました。美味しい実がなりすぎて、大変でした。私も彼も腰痛、いつまで「庭師」を続けられるか心配しております。一緒に作業してくださいました方が、高所から落下。中ずりになり度肝を抜かしました。幸いのことに腰ひもで大事なくすみしました。庭師の親方も大変です。自分でできることはやっているのですが木々が2階の屋根を越すようになって、手入れを頼みました。

オカワカメの垣根



神奈川県逗子市のサトウキビ畑

GA東京の理事会が2月20日(木)に変更になったのを忘れてしまい欠席。「農園たより」2月号をお渡しできませんでした。総会前の理事会でしたが、残念であります。

アドバイザーの組織が作られてから何年になりましたでしょうか、囑託を終わっても、7・8年学校に勤めておりましたので活動に余り参加することはありませんでした。その罪滅ぼしということから、「たより」を配っておりますが、どんなものでありましょう。

GAの発会式のあと、NHKのBS3チャンネルでの「私のガーデニング スペシャル」のパネリストをやらせていただいたことを懐かしく思い出します。バラの大和田さん、ハーブの外山さん、庭師の加藤さん、杉並の鉢物のリース会社の内藤さん……ワイワイ、ガヤガヤ、楽しい思い出でありました。

T